



生活・ものづくりの学びNetニュース

第5号

2013年2月発行

ご挨拶

本ネットワークが2010年9月に発足してから2年半。私たちの生活やそれと密接なかわりのあるものづくりについて学び、人間としてバランスのとれた能力を身に付けることの意義をロビー活動で訴えてきましたが、現在の家庭科、技術・家庭科の内容はよく知られていないようでした。現代の急速に変化する生活とそれを支える技術、それに伴って生じる家庭生活の問題、東日本大震災はこの問題を一挙に示しました。これを社会任せにするのではなく自分のこととしてしっかり学ぶ必要があります。しかし、家庭科、技術・家庭科の授業時数はあまりに少ない現状です。

2013年は、さらに全国各地でロビー活動、あるいは他教科や市民の人々との交流活動・熟議を起こして話題を投げかけられるでしょうか。まずは最初に奈良で学習交流会があります。1県で1つ活動をすれば全国で50になります。どうぞユニークなアイデアを出してください。

事務局 渡邊 彩子

2012年度第1回学習交流会および総会報告

生活やものづくりの学びネットワークの2012年度第1回学習交流会が、2012年9月30日(日)、日本女子大学目白キャンパス百年館低層棟2階206室で開催されました。今回は「生活やものづくりを大切にす社会にむけて」をテーマに、全国農業協同組合中央会の前田健喜氏と池田製作所の池田克憲氏による「ワークショップ」及び主婦連合会会長の山根香織氏、「人間と性」教育研究協議会代表幹事の村瀬幸浩氏、東京学芸大学大学院 韓国からの留学生の鄭 暁静氏チョン ヒョクチョンによる「ともに語ろう」が行われました。当日は、72名の参加がありました。

会 よい食プロジェクト推進課長)が農家の流通、子どもの教育、女性プロジェクト、地域おこしなどを取り上げて、最近のJAの取り組みについてわかりやすく説明されました。



1. 開会挨拶 世話人代表 大竹美登利
2. ステージ1 「あすの授業に役立つワークショップ」

○前田健喜氏 (全国農業協同組合中央

○池田克憲氏(池田製作所)は日本のものづくりの厳しい現状および太陽光発電についてお話くださいました。中小

企業基本法など不十分であり、中小企業のものづくりはきわめて厳しい状況にあることが語られました。



3. ステージ2「ともに語ろう」



- 山根香織氏（主婦連合会会長）が、日本の消費者運動の牽引者である主婦連の代表として、今、消費者が関心をよせている食品の安全や安定した農産物の提供への思いを語られました。
- 村瀬幸浩氏（“人間と性”教育研究協議会代表幹事）から、男子学生の性教育への長年の取り組みおよび生と性の教育の本質を学ぶ大切さが語られました。性の意識は、文化の問題、人間関係の問題であることを説明されました。
- 鄭 暁静氏（東京学芸大学大学院 韓国からの留学生）から、韓国の家庭科、技術・家庭科の近年の変化について説明がありました。日本の家庭科に対し

「根本を維持し、子どもに本当に必要なものは何かを大切に、家庭科発展維持を強く願っている。」との期待が述べられました。

4. フロアーでの意見交換



野菜や果物の生産に、一代種（F1種・ハイブリッド種）が使われるようになるなど、流通・小売り・販売企業・政府の責任（法を作る側の危うさ）について問題提起があり、活発な意見交換がかわされました。

5. まとめ

ゲストスピーカー5人は、どの方も聞きごたえのある充実した内容でした。参加者数も台風が来ている悪天候にも関わらず72人と、多くの参加がありました。今回の学習交流報告会で得た情報や知識を、参加者の皆さんの生活の中で活かされていくことを願っています。

（文責 山下いづみ）

その後の総会では、以下の事項を中心に報告がありました。

1. ネットワーク会員数 583名 参加団体 32団体（2012年3月31日現在）
2. 学習交流会報告
3. ロビー活動・広報活動報告
4. 東日本大震災被災地への支援等の報告
5. 2011年決算報告・2012年予算案
6. 審議事項
会則改正案が認められました。

活 動 報 告

◆日弁連 両性の平等委員会との懇談報告

2012年10月2日、日弁連副会長、日弁連両性の平等委員会委員長、副委員長ら、6人の弁護士と懇談を行いました。本ネットからは大竹、鶴田、渡邊、山下、北谷、齊藤の6人が参加しました。

弁護士6人中4人が女性で、女子のみ必修時代に家庭科を履修した方たちでした。

まず、鶴田と大竹が日本教師教育学会「教師教育におけるジェンダー視点の必要性」報告書および高校家庭科教科書等により教育におけるジェンダーの状況や家庭科教員配置の状況等について説明しました。その後、高校の教師だった北谷と齊藤が、高校の新カリや家庭科教員配置の実態を出しました。

当日、こちらが用意したその他の資料は下記の通りです。

「小学校の標準時間数について」「中学校の標準時間数について」「高等学校の教科・科目について」「『家庭基礎』各教科書の実態」「平成21年度東京都技術・家庭科教員実態数」「横浜市の技術・家庭科教員配置の実態」「家教連夏季集会での高校アンケート」「都立高校教職員組合女性部調査」「家庭科の実像」「家庭科教科書バッシングを検証する」「男女共同参画基本計画（第二次）のジェンダーの視点の箇所」「育鵬社版 中学校公民」（基本的人権の尊重の頁）

懇談では、委員長から「弁護士会としては何ができるか」という投げかけがありました。また、「法曹教育を担当した時もジェンダーについて扱わなければと考えていた。子どもの頃からの教育が大事でおとなになってからでは遅すぎると感じた。何回か懇談し、擦り合わせをしていけば、何かが出るのではないか。」

「日弁連は政策提言ではなく個別課題での提言になる。」「家庭科というネーミングはどうか。」「ジェンダー教育は重要なので、具

体的な話しをまた聞きたい。継続していけたら」といったご意見が出ました。今回で終わりではなく、機会を見つけて継続しての懇談が必要という点では一致したと思います。

（文責 齊藤弘子）

◆ロビー活動報告

河村美穂と伊藤は、2012年9月29日に、安彦忠彦氏（現：神奈川大学特別招聘教授、第6期中央教育審議会委員）を訪問して、本ネットワークの活動の紹介とご協力をお願いしました。

安彦氏は、持参した家庭科の教科書を丹念にご覧になって、家庭科の重要性については認識していると言われました。さらに、家庭科は、子どもたちの「自立」を育むための教科という視点をもっとアピールすべきではないかとアドバイスをいただき、「自立」をキーワードにして、衣食住や家族に関する学び、消費者教育やジェンダー教育等を統合させた理論構築の必要性を説かれました。氏も、以前、中央教育審議会の会議において、学校教育のなかで「自立」をどのように育てていくのかは、非常に大切な視点であると意見を述べられたそうです。（文責 伊藤葉子）

◆第49回全国小学校家庭科教育研究会に参加

大会は2012年11月8～9日に佐賀市文化会館で行われました。

研究主題は「生活を工夫する実践力を育てる家庭科教育」です。「継続的な実践力」を育むために学習方法は問題解決的な学習を繰り返すことが徹底されていました。

公開授業研究は、①小・中・高校の連続性を空間、時間、内容の系統性の点から整理し教員も交流して年間指導計画を立てる、②食育は家庭科として調理を中核にしながらも生産・流通・消費から環境までの循環を学ぶ計画を作成する、③学習評価では習得、探求、

活用（パフォーマンス課題）の各過程の評価
規準作成(活用ではルーブリックによる評価)
の3つで、長期計画、題材計画、評価につい

での系統的な研究でした。実践力とは単なる
実技能力でないことがよくわかりました。
(文責 渡邊彩子)

《 3月 学習交流会 》

生活やものづくりの学びネットワークの学習交流会を、下記の通り開催
いたします。今回は関西です。ふるってご参加ください。

日時：2013年3月23日（土）午後1時～4時予定

集合：午後1時 奈良東大寺大仏殿入り口前

内容：大仏拝観とご講話

講話テーマ：修二会（お水取り）の衣と食（仮）

講師：東大寺持宝院住職 上司永照師

参加費：1000円（入堂料500円、茶菓代500円）

申込先：seikatsu_nt@yahoo.co.jp 又は fax(03)3910-7419（申し込み専用）

申し込み締め切り：2013年3月8日 先着50名

（内容確定しだいHPに掲載します）



【会員拡大活動のお願い】

2013年1月4日の政府の国家戦略会議で小中高校の「六三三制」を柔軟に運営する教育システムの改革などが打ち出され、また中央教育審議会高等学校教育部会でもコア（全ての生徒に共通に身に付けさせるべきもの）の学びと教育の質保証と絡ませた学力論が展開されるなど、教育改革は急ピッチで進みはじめました。この時期に改めて生活とものづくりの学びが子どもたちの基本的な学力として重要であることをアピールしていく必要があります。そのためにもより良い実践を作り、多くの方に伝えていくことが大切です。家庭科や技術科は大半の学校で1人ですので、本ネットワークを活用して多くの人と連携しながら、みんなで力を合わせて取り組みましょう。そのためにも、みなさんの周りの方々を本ネットワークに是非お誘いください。

* 事務局からのお知らせ *

- ①2011・2012年度の年会費が未納の方に、郵便振り込み票を同封させていただきました。本票がご入金と入れ違いになりましたら、お許しください。
- ②あなたのメールアドレスをお知らせください。以下の本ネットアドレスへご連絡いただくと、メーリングリストで全国の会員とつながることができます。情報交換の場としてご利用ください。

発行者 生活やものづくりの学びネットワーク 事務局
〒112-0012 東京都文京区大塚4-39-11 仲町YTビル3F 日本家庭科教育学会事務局気付
メールアドレス：seikatsu_nt@yahoo.co.jp FAX：03-3902-1668
ホームページ：http://www.geocities.jp/seikatsu_monozukuri_nt/